授業ガイド

Unit 0 ・ オリエンテーション

How the course works ・ 初回・体験レッスン

コースの見通しを見せて、生徒さんのことを聞く回です。日本語の文法は「はじめまして」の3行と、困ったときの2つの言い方だけで、残りは、これから1年をどう進めるかの相談に使います。体験レッスンにもそのまま使えます。

この回で決めること	この回で決めることが3つあります。ローマ字表示を出したままにするか、各ユニットの漢字パートをやるか、それに宿題をどのくらいのペースでやるかです。どれも生徒さんの答えを聞いてから決められます。

1　この回の中身

	画面	このステップですること	分
STEP 1	about you Welcome and about you	生徒さんのことを聞いて、この先の進め方を決める材料を集めます。	10
STEP 2	はじめまして Introducing yourself	生徒さんが、自分の名前で自己紹介できるようにします。	8
STEP 3	chapters How the course is built, and what they will be able to do	コースの全体像と、1年後に何ができるようになるかを見せます。	8
STEP 4	reading aloud What happens in a lesson, and how to practise	1回のレッスンの流れと、レッスン外の練習のしかたを決めます。	12
STEP 5	materials Materials and printables	配布物を一度ずつ開いて、使い方を決めます。	7
STEP 6	もう いちど おねがいします Two phrases for when you are lost	分からないときに使う2つの言い方を、実際に使える状態にします。	5
STEP 7	また よろしく おねがいします Closing and homework	宿題を渡して、日本語で終わります。	2

STEP 1 about you

10分

Welcome and about you

生徒さんのことを聞いて、この先の進め方を決める材料を集めます。

「こんにちは」であいさつして、今日やることを伝えます。コースの組み立て、レッスンの流れ、練習のしかた、それに自己紹介です。そのあと、なぜ日本語を学ぶのか、今どのくらい知っているのかを聞きます。画面のボタンで答えてもらう形にしてあるので、口で答えにくい生徒さんでも進められます。ここで聞いた答えが、このあとの例文の材料になります。

先生が足すこと

答えを聞いたら、ローマ字表示を出したままにするかを決めます。メニューの中に切り替えがあります。各ユニットの漢字パートをやるかどうかも、ここで決められます。どちらも、あとから変えられることを伝えておくと、生徒さんが構えません。

初回にやりがちなこと

× 完全な初心者として扱う

日本語を学びに来る人のほとんどは、すでに何かを知っています。アニメやドラマで耳にした言い方、旅行で覚えたあいさつ、職場で聞いた単語。何を知っているかを先に聞いてから説明すると、同じ話を二度しなくて済みます。

STEP 2 はじめまして

8分

Introducing yourself

生徒さんが、自分の名前で自己紹介できるようにします。

「はじめまして」「〜です」「よろしく おねがいします」の3行です。先生が自分の名前で言ってみせてから、生徒さんの名前で言ってもらいます。日本語を声に出す最初の場面なので、うまく言えなくても止めずに、通して言ってもらうほうが進みます。

先生が足すこと

生徒さんの名前が日本語で言いにくい場合、この場で呼び方を決めておくと、このあとの練習が楽になります。

初回にやりがちなこと

× 自分の名前に「さん」をつける

「さん」は相手につける言い方です。自分には使いません。英語の Mr./Ms. と同じで、自分には付けない、と説明すると伝わります。

× 「よろしく おねがいします」を急いで言う

長いので、最初は「よろしく」と「おねがいします」に分けて、そのあとつなげます。

つぎへ進む目安

はじめまして

hajimemashite

画面を見ないで自己紹介できるか。

STEP 3 chapters

8分

How the course is built, and what they will be able to do

コースの全体像と、1年後に何ができるようになるかを見せます。

このコースが N5 の全部と N4 の入口までを扱うこと、それが実際に何ができる状態なのかを見せます。9つの章があり、どのユニットも前に出たものだけで作られていることも画面で見えます。できるようになることのリストを一緒に読んで、生徒さんの目的にいちばん近いのはどれかを聞きます。

先生が足すこと

ペースはここで一緒に決めます。ポータルに出ている回数は目安で、決まりではありません。仕事の状況や、生徒さんが使える時間に合わせて構いません。

初回にやりがちなこと

- ペースや試験の結果を約束する

「1年で N5 に合格できます」のような言い方は避けてください。上達の速さは、レッスン以外にどれだけ触れるかで大きく変わります。話すのは、何ができるようになるかのほうです。

STEP 4 reading aloud

12分

What happens in a lesson, and how to practise

1回のレッスンの流れと、レッスン外の練習のしかたを決めます。

レッスンが何の順番で進むのか、なぜその順なのかを見せます。そのうえで、レッスンだけでは話せるようにならないことを、はっきり伝えます。週1回50分では、日本語に触れる時間が足りません。音読を毎日5分でも続けるかどうかで、半年後に差が出ます。

先生が足すこと

続けられる小さい習慣を、その場で決めます。いつ、どのくらい。「毎日30分」より「通勤の電車で5分」のほうが残ります。

初回にやりがちなこと

× 理由を言わずに練習方法だけ伝える

なぜ音読なのかを説明しないと、続きません。文字を見て意味が分かることと、口から出ることは別だ、というところまで話すと、納得してもらえます。

STEP 5 materials

7分

Materials and printables

配布物を一度ずつ開いて、使い方を決めます。

スライド、宿題とその答え、単語シート、小テストを、画面で一度ずつ開きます。数秒ずつで充分です。見たことがあるかどうかで、次回からの受け取り方が変わります。

先生が足すこと

印刷物をどう使うかを決めます。紙に印刷するのか、タブレットで見るのか、打ち込むのか、ノートに書くのか。生徒さんの環境に合う形を選んでもらいます。第1章の分をここで渡しておくと、次回すぐ始められます。

初回にやりがちなこと

- × 開かずに説明だけする
  口で説明するより、実際に開いて見せるほうが早く伝わります。

- × 答えを見ながら宿題をする
  答えは、やったあとの答え合わせに使うものです。ここで一度言っておくと、あとで気まずくなりません。

STEP 6 もう いちど おねがいします 5分

Two phrases for when you are lost

分からないときに使う2つの言い方を、実際に使える状態にします。

「もう いちど おねがいします」と「ゆっくり おねがいします」です。この2つを覚えておくと、生徒さんは分からない場面で黙らずに済みます。初級のあいだ、いちばん使う表現になります。

先生が足すこと

教えたあと、先生がわざと速く話して、生徒さんに使ってもらう場面を作ります。1回使えば、次から自分で言えるようになります。このあとのレッスンでも、ときどきわざと速く話すと定着します。

初回にやりがちなこと

× 英語の **sorry?** に戻る
生徒さんが英語で聞き返したときは、言い直す前に、画面のカードを指すだけにします。そうすると日本語のほうを使うようになります。

つぎへ進む目安

もう いちど おねがいします
mou ichido onegai shimasu
わざと速く言って、この言い方が出てくるか。

STEP 7 また よろしく おねがいします 2分

Closing and homework

宿題を渡して、日本語で終わります。

宿題は2つです。ロードマップの「About me」を埋めることと、今日出てきた日本語を声に出して読むことです。どちらも短いので、初回の負担になりません。

先生が足すこと

終わりのあいさつは日本語でします。「ありがとう ございました」「また よろしく おねがいします」。初回を日本語で閉じると、次回も日本語で始められます。

初回にやりがちなこと

× 「さようなら」で終わる

「さようなら」は長い別れの響きがあります。また会う相手には「また よろしく おねがいします」のほうが合います。

つぎへ進む目安

また よろしく おねがいします

mata yoroshiku onegai shimasu

この言い方でレッスンを閉じられるか。